

リニア軍事転用の懸念も

米中間の軍事技術のせめぎ合いは、日本企業にも無関係ではない。注目されているのがJR東海のリニア技術だ。東京ー名古屋間を40分で結ぶ「夢の超特急」の駆動力を、空母のカタパルトや軍艦のレールガンに転用できなかというのだ。

超伝導が生み出す強い磁力を生かしたリニアの最高速度は約500キロ。艦載機発艦に必要とされる約30キロを超える、原理的には力タバトルへ転用が可能だ。

しかし、コイルをマイナス

一方、遠距離に弾丸を繋ぐには、リニアは「力不足」。JR東海幹部は「リニアは、あくまで鉄道を浮上させて走らせる目的で開発をしてきた」と、軍事転用の可能性を否定する。ただ、今後は有望な軍事技術になりうる。米国の軍事専門家は「リニアとレールガンの技術には共通点が多く、リニアを輸入する意味はある」と明かす。リニア技術が軍事転用さ

れる可能性はないか——。4月中旬、記者に問われた菅義偉官房長官は「技術的なことはよく分かりません」と述べるにとどめた。

JR東海はいま、リニアの海外への売り込みを進める。第一の標的は米国。JR東海の葛西敬之名誉会長は「(米国が日本の)同盟国で、国益のベクトルが同じだから」と説明する。4月の日米首脳会談では、安倍晋三首相がオバマ大統領に技術を無償で提供する考えを伝えた。

一方で中国への輸出は全く頭がない。00年代半ば、川崎重工業などが新幹線技術を中国に供与したり、今

絶対に信用できる米国を
りたい。リニアは『日米
盟の象徴』なのだ

の後中国側が「独自開発の国産新幹線」と宣伝した苦い記憶があるためという。ある政府関係者はこう解説する。「リニアは軍事転用の恐れもあるからこそ、

世界の情報戦争を描いた
非情世界は今回で終了しま
す。今年末、このシリーズ
をまとめた書籍を朝日新聞
出版から刊行します。 ◇